

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立北波多中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・県の「小中連携による学力向上推進地域」の指定2年目となり、小中連携による学力の向上を目標に、指導法改善やICT機器の活用に向けた研究授業やTT授業等に取り組んできた。学習へ向かう姿勢も徐々に意欲的になってきており、学力の高まりとともに自己肯定感も高まりつつある。県学力状況調査において、1年生・2年生ともに教科によって平均点を上回るものもあるが、苦手意識が強く、平均点を下回る教科もあるので、今後も、思考力・判断力・表現力という活力の育成のための教材研究の工夫、学力向上に努めていきたい。</p> <p>・保護者や地域の協力、支援を受けて様々な行事を成功に導くことができた。行事を通して達成感や成功体験を積ませることで、生徒の自己肯定感を育んでいる。しかし、行事についての事前準備に多くの時間を費やしていることも事実である。今後も業務改善や行事の精選など行いながら勤務時間の適正化を図る必要がある。</p> <p>・生徒会を中心に、平和集会や人権集会等を通して、人権感覚を養い、人を思いやる気持ちや自他を大切にすることを意識を高めていきたい。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	自他を大切にし、互いに認め合い、共に高め合う生徒の育成
----------	-----------------------------

3 本年度の重点目標	<p>①一人一人が大切にされる学習づくり</p> <p>②自己指導能力を高める生活づくり</p> <p>③互いのよさを認め合える仲間づくり</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・知識を活用し、生徒の主体的な学びを授業の中に仕組む授業づくり	○生徒による授業評価の項目に「学習したことを使って、問題解決の学習をすることができた」に肯定的な回答をする生徒が80%以上を目指す。	・各教科の特性を生かし、知識を十分に付けさせ、その知識を使ってゴールへ向かう授業の展開を考えた授業づくり ・生徒の学びを見とる相互参観・意見交換の実施とアンケートの実施			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○地域の人材や外部講師を活用した体験活動や講話などにより、心情面を育てる。保護者の肯定的な意見80%を目指す。	・「いきいき学ぶからつ子推進事業」と関連させ、地域人材の活用やキャリア講話を各学年の実態に応じて行い、社会性や倫理観を培う。 ・平和集会とPTA活動の体験活動を連携させ、生命の大切さや他者への思いやりを育てる。							・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任 ・教頭
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートで「学校はいじめのない楽しい学校づくりに努めている」と回答した保護者を80%以上にする。 ○職員の研修の充実(校外での個人の研修推奨とSCを活用した授業を2回以上)	・いじめアンケート、生活アンケート、Q-Uを実施し生徒の変化を捉えるとともに、年2回教育相談期間を設け生徒一人一人の声を聴く。 ・生徒理解を深めるためのSCによる授業を取り入れ、全職員がいじめ問題対応への共通理解を行う。							・(主)生徒指導主事 ・(副)各学年主任 教育相談担当者
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・生徒会本部を中心に、自治活動を増やし、生徒を承認する機会を増やす。(生徒朝会、各行事の実行委員会等) ・学期に1回、生徒朝会の場で生徒の振り返り発表を行った。通信等で紹介をするなどその生徒を紹介する場を仕組む。							
●健康・体づくり	○生徒のボランティア精神の育成	○ボランティア精神の育成のため、校内外の行事・清掃美化活動・ボランティア活動を全生徒1度は経験させる。	・各種団体と連携するとともに、生徒会(ボランティアBANK)が中心となり企画・運営を行い、生徒の自主的な活動にする。 ・生徒の頑張りや地域の人々の感謝の声を取り上げ、生徒の活動意欲や達成感につなげる。 ・メディアの活用を行いボランティア意識の高揚を図る。							・生徒会担当者 ・体育主任 ・教頭
	●「望ましい生活習慣の形成」	○スマホ、ゲーム保有者の使用時間2時間以内/日の割合を70%以上とする。(月～金)	・PTA総会や保護者懇談会、学活等を活用し、スマホの危険性や功罪について話し、保護者にSNSの使用のさせ方・生徒の使用の仕方について考えてもらう。							・生徒指導主事 ・教頭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○体力の向上	○新体力テストにおいて、合計得点が全国平均を上回る。	・めあての設置、個人ノートの活用、活動の工夫等により、自ら進んで活動する授業の確立を図り、生徒の体力向上を支援する。 ・部活動加入を勧めるとともに、部活動を計画的に実施したり、体力増進のために活動内容を工夫したりする。							・体育担当
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○「業務効率化のためにICT機器を活用した」と答える職員の割合を80%以上とする。	・毎月の時間外勤務をチェックし、個人面談を行い超過の原因を明らかにし上限の遵守に努める。 ・会議等でのペーパーレス化を推進する。 ・ICTを活用したアンケートを推奨する。							・管理職
●特別支援教育の充実	○休養日の確保	○毎週水曜日及び土曜日または日曜日のいずれかを100%休養日とする。(試合が土日開催の場合は、翌日以降に必ず休養する)	・毎月の業務記録表を点検し、休養日取得状況を把握し、確実な取得を実践する。							・管理職
	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員75%以上を目指す。	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・校内特別支援会議の開催、関係者間での情報共有							・特別支援教育コーディネーター (副)教育相談担当
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○誰一人取り残さない教育活動の充実	○全職員によるアイデアの共有と共通実践 ・人間関係づくりの工夫やUDの視点を入れた環境づくり ・授業や教育活動についての課題の確認、実践、振り返り	○生徒によるアンケートの項目に「学校に行くのは楽しいと思う」80%以上を目指す。 ○職員アンケートの項目の中に「学校は、学校教育目標や重点目標に基づいた教育活動ができていると思う」80%以上を目指す。	・職員が「授業づくり部会」と「学級づくり部会」のどちらかに属し、実践力を高めるためのアイデアの共有を行い、実践する。 ・タブレット端末を使って、不登校の生徒や別室学習を行っている生徒へのライブ授業を行う環境作り			

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--